

# とよなか

(部内資料)

子ども達の豊か  
な成長の力を  
ために皆で力を  
合わせましょう！

教え子を再び戦場に送るな！ 2016年10月7日発行NO.570

## ちょっとまって！！

# 「小中一貫校」 学校統廃合を考える



### 市は「魅力ある学校」 づくり…と言いますが

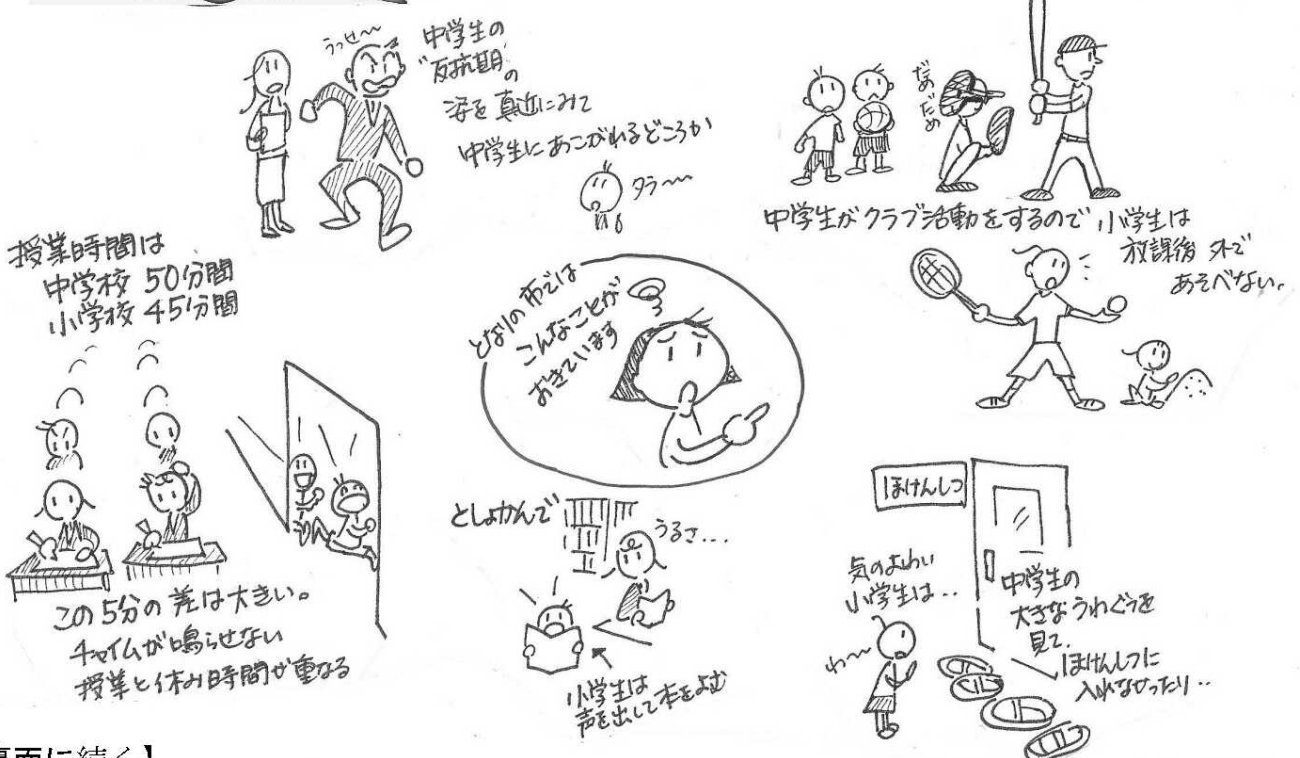
小中一貫校になると..



豊中市が打ち出した学校統廃合計画。この計画を聞いた市民から、多くの疑問の声が出されています。自治会からも構想案の撤回を求める要望書が出される動きがうまれています。

### ほんとのところ...

小学生はおもい取りあそべず 中学生はおちつかない。



【裏面に続く】

## 《わたしたちは、 こう考えます》

- ① 統廃合による小中一貫校の建設に反対し、今の学校を存続することを求めます。
- ② 小規模で「クラス替えができない」とされる学校に

ついては、(30人以下学級)にすることでクラス替えが可能になります。

- ③ 学力や生活指導面のサポートは、教職員の数を増やすことで可能になります。
- ④ 安心安全に通学できる学

校、地域に根ざした学校を求めます。

- ⑤ 地域のことはもっと地域の声を聞き、意見を尊重する行政をもとめます。

## インド・ラダックへの道(1)

小曾根小 綱島 典子

長期の休み。世界を旅する綱島さん。今夏のインド・ラダックでの経験・体験を数回の連載で紹介します。

これまで私はいろんな国をフラフラしてきたが、インドにはほとんど縁がなかった。単純に興味を持ってなかったのもあるが、ビザ取得に非常に手間が



かかること(私は面倒くさいことは嫌いだ)、  
「インドは大好きになるか大嫌いになるかのどちらか」で、「人がうざい国ナンバー1(今までに出会った旅人たち評価)」らしいからだ。

我慢じゃないが今までに行った中で「もう二度とゴメンだ」と思った国はない。でももうずっと「今行ったらインドのところが大嫌いになるだろう」と自分に暗示をかけていたのだ。

ところが今年ついに、誰かの言葉じゃないがインドに「呼ばれし者」になった。

今回の旅の目的地、ラダック地方に行く前に、半日ほどニューデリーの町を散策することにしました。大都市はあまり好きではないので大抵は素通りす

るのだが、今回は初めての国なのでとりあえず有名ドコロに立ち寄り、「多くの人が考えるインド」に触れてみたかったのだ。

空港で荷物を預け、地下鉄に乗る。うん、これといって他のアジアの都市と大きな違いはない、駅の外に出た途端インドのぐちゃぐちゃを目の当たりにした。(続く)



## 「21世紀にふさわしい教育を 「部落問題学習」を考えるQ&A

大阪教育文化センター「部落問題解決と教育」研究会

Q4 「当事者」「部落民」「同和地区出身者」はどんな人ですか。

府教委の指導資料には「当事者の生徒、そうではない生徒」と書いてあります。

A4 そんな人はいません。大阪府教委は「誰が地区出身者か誰にもわからない」としています。

5 同和問題生徒たちが自ら動く、つながる同和問題学習

当事者の生徒、そうでない生徒にとっても同和問題を契機に自己の課題に向き合うことができることを実感させる。(教材・指導案集「人権教育COMPASS 2」P38大阪府教育センター)

5 同和問題「学ぶ」ことの意味を考える

◇では、「同和地区の人」って、誰のことをさすのでしょうか？ 結論実は、誰も答えられないのです。(略)誰が「同和地区の人」なのか、誰も説明できないのです。(「人権教育COMPASS 4」P91)

自分で名乗る人がいます。でも、ほんとうかどうかわかりません。ご先祖がどんな身分の人であったとしても「それがどうしたん？」というのが近代民主主義ではないでしょうか。

自分で名乗る人がいても、行政が「あなたは当事者」他の子は「そうでない生徒」と認定してもよいのでしょうか。「部落」も「同和地区」もありません。当事者と当事者でない人という分け隔てをすることなく、同じ人間として協力共同しあう時代です。